国　　名　チュニジア
指導科目　微生物学
派遣先機関　国立栄養研究所
専門家名　松井　道子
赴任時現職　国立衛生試験所衛生微生物部主任研究官
派遣期間　1985.4.8～8.18

業　務　報　告　書

I〕供与機材に関して

A）船便輸送の機材

7月31日付の中間報告に記載した通り，5ケース中，1ケースが行方不明となり，帰国日迄，見つからなかった。栄養研究所として，公式の書類（別紙No.1）をSOCOTU（配送会社）に提出した。

B）空輸の携行機材

全ての機材は，何ら損傷を受けずに到着したが，専門家立ち合いのもとで開封した所，一部の機材に問題があった。詳細はV〕JICAへの要望事項の中に記載。

II〕技術指導

先づ，昨年送られた機器の調整，及び試運転から始め，研究室のスタッフに対して機器操作法の研修を行ない，次にこれらの機器を使用して，検体の検定を行なった。携行機材の到着がおくれた為に，一部技術指導に支障をきたしたが，幸いに，昨年，日本に来た研修員が帰国後，必要な物品を購入しておいてくれたので，それ等を使って技術指導を行なう事が出来た。

発熱試験　：コンピューター，ソフトプログラム，自動体重測定器等を使い，技術操作をマスターさせ，ウサギを使って体温測定を行なった。

薬，化粧品の試験：　シャンプーを検体として，培地の調製，生菌数，病原細菌の検査，分離，同定，防腐剤の不活化試験等を行なった。薬は錠剤を使用した。

抗生物質の力価測定：　ネオマイシン，アモキシリン等数種類の抗生物質の力価測定の技術指導。

無菌試験：　無菌室を消毒液にて洗浄後作動させた。目薬を使ってメンブラン法にて無菌試験を行なった。

菌株の凍結乾燥法：　標準株5株の凍結乾燥を行い技術をマスターさせた。

嫌気性菌の培養法，顕微鏡の組立て，調整，写真撮影法，溶出試験等の指導，送られた全ての供与機器の操作法の指導，及び日本語の取り扱い説明書がついてない機器の翻訳，説明等を行った。

Ⅲ〕プロジェクトの現状と問題点

本プロジェクトは，昭和５３年４月から協力が開始されたが，微生物部門の協力はおくれてスタートし，５８年，５９年，フォローアップの形で行われた。５８年に，無菌室設置の為に専門家が３ケ月派遣,及び研修員１人８ケ月研修，５９年技術指導の為，専門家４ケ月派遣という協力が行われたに過ぎず，５３年からスタートした化学部門に比較して差が認められ，今やっとスタートラインに着いたという感じである。薬品品質管理の微生物試験に必要な機器はほぼそろい，供与機器の操作及び基礎的技法の技術移転は終える事が出来た。短期間であったことと，検体数が少なかった為に，実験経験の積み重ねは十分ではないが，検体を各国薬局法に従い，一般試験法，各条試験法で処理出来る様にするという初期の目的は達成出来たと考える。しかし，彼等が完全に自立出来る様になる為には，彼等自身の努力も必要であり，数多くの検体を扱い,経験を重ねなければならないが,さらに日本側の専門家派遣による技術協力（機器の援助は不必要）が必要と思われる。チュニジア側もこの事を強く希望している。今回，痛感した事は，プロジェクトを成功させる為には，彼等が自立する迄，専門家が常時，任地に滞在し，不在の期間を作らない事が必要だと言う事である。チュニジアの場合，プロジェクトの後半は（５７年以降）専門家の不在期間が長かったこと，薬品品質管理室のスタッフ全員が若いこと，栄養研究所の所長が栄養学の方により関心が強い事等が原因して，この研究室の発展が少しおくれた様に思われる。研究室の存在がチュニジアにおいて評価される様になり，チュニジアの薬品品質管理の中枢として重要な役割を果すようになる迄は，今なお時間がかかるように思われる。一部の研究員達は，この仕事の重要性を十分に認識しており，やる気も持っているので，この段階で，日本側の技術協力を中止するのは，真に惜しく，彼等が自立出来る迄，今しばらく（３～４年）見守り，協力を（専門家派遣）続けて欲しいと考える。細い点についてふれてみたい。

A）検体数について

別紙（No.２）に示す様に過去４年間の検体数を比べてみると，本来ならば，年毎に，検体数が増すべきところなのに，むしろ減少気味である。去年の夏以降，検体があまり送られて来ないとスタッフ達は嘆いているが，これは，彼等自身の活動，能力を外部へアピールする努力の不足，上層部の薬品品質管理に対する熱意の不足，ＰＣＴ（国立中央製薬所）との関係，行政上の問題等が原因となっている様に思われる。実務的に活動していく上には，政治的バックアップが必要と思われる。８月３日にＰＣＴの倉庫が火事になり，燃え残った薬品についての検査依頼が来て，同月１０日頃に相当数の検体が研究室に持ち込まれた。この検査

の実績が評価され，研究室の今後の発展につながるのではないかとかかすかな期待をいだいている。

B）スタッフの強化

エバリュエーション調査団の報告では，１９８１～８６年の間に薬剤師９人（当時）→２３名，補助員２名→７名，他に技師４名増員して４４名となっているが，現在は，薬剤師１１名，補助員２名，合計１３名である。微生物関係は２名だが，少くとも３～４名必要である。

C）予算について

調査団の報告では，１９８２年～８６年における第６次経済計画を大蔵省で確定し，１９８２年８万ディナール，１９８３～１９８６年毎年3.5万ディナールとなっている。獲得した予算額全てが品質管理の為に充当されていない様である（別紙No.3）。研究室のスタッフ達は，現在，必要機器全てが日本より供与されているので，現在の予算でやってゆけるか，プロジェクトが終り，将来独立した時は，この予長では不十分で，見通しは暗いを述べている。

D）動物舎の建設

動物舎の完成は見通しが立たず，研究室の片隅に小さいスペースを取り，動物室を作った（写真参照）。ウサギ３０匹程度しか飼育出来ず，温度その他飼育条件の管理の点もおそまつである。本格的にパイロジェンテストをしようとするならば，これでは不十分である。

E）組織上の問題

薬品品質管理部には，部長が存在せず，薬剤師１１人が平等の立場である為，まとまりにくく，部としての方向づけがむづかしい状態である。船頭多くして船進まずの感じである。

F）薬品品質管理部の職員の業務内容

検体があまり送られてこない為に，彼等自身で，１９８４年の計画書（No.4）を作り，検体を町で購入し，検査を行なっている。しかしこの方法は，結果の報告に期限が無いこと及び義務づけられていないこと，さらに，たとえ上層部に結果を報告しても成果が生かされず，研究員達は今一つ意欲に欠けるものが見られる。

毎月１回セミナーをやり，１ヶ月間行なった業務内容又は紹介したい事の発表を行った。ここに４～６月分のものを参考迄にタイトルを記載する。

S.JAOUA (Chemical analysis of drugs)

- Furosemide
- Metoclopramide ; Analize chimoque
- Separation de la Sulfadiazine et de la Nitro-furantione par HPLC

S.OUANES (Chemical analysis of drugs)

- Carbutamide : Dosage chimique
- Griseofulvine : Controle analytique
- Cyano coblamine : Analyse chimique dans des ampoules injectectables

N.CHANEM (Chemical analysis of drugs)

- Ampicilline : Dosage chimique
- Clibenclamide : Analyse chimique dans 2 spécialités
- Digitaline injectable : Dosage chimique

L.SAFFAR (Chemical analysis of drugs)

- Dosage des comprimés de Tolebutamide
- Vitamine c tromexane
- Isoniazide comprimés : Control analytique

A.SADEM (Chemical analysis od drugs and pyrogen test)

- Test pyrogenes : Utilisation du pyrogen test computer IPC
- Diazepan : Dosage chimoque dans differents spécialités de comprimés (Polka, Bergamo et Roche)
- Mogadon : Dosage de Nitrazepan

A.B.ZEKLI (Cosmetics quality control)

- Analyse chimique comparative de cinq types de shampooing
- Analyse chimique de 6 types de shampooing
- Determination de la teneur en surfactifs dans un shampooing

K.CHEDIRA (Phytochemistry)

- Dosage des comprimés de tolbutamide
- Le controle des médicaments en Belgique

- Etude chimique de deux formulations de methyl-Dopa

K.B.CHEDLY (Biopharmaceutics and pharmacology)

- Alpha methyle Dopa, comprimés - Etude in vitro
- Glibenclamide : Etude biophamaceutique comparative de 2 formes comprimés doses à 5 mg
- Glibenclamide - Etude biophamaceutique comparative de deux formes comprimés doses à 5 mg

F.SAFFAR (Biophamaceutics and pharmacology)

- Carbutamide comprimés : Etude biopharmaceutique comparative
- Vitamine C Tromexane
- Isoniazide comprimes : Controle analytique

L.MAHJOUBI ET T.BARKAOUI (Microbiology)

- Bacteriologie des shampooing
- Etude comparative de l'activite antimicrobial de deux collyres à base de Neomycine
- Ampicilline : Dosage microbiologique
- Biophotometer et Lyophilisateur : Mode operatoires

Ⅳ) プロジェクトに対する今後の日本への要望

A) プロジェクトの初期に送られた機器の一部はすでに故障しており，機器のメーカー（島津，日立）の専門家でないと，修理不可能の状態である。高額の機器がこのまま放置されるのは真にもったいないし，今迄の専門家の苦労や，このプロジェクトを成功させる為にも，是非もう一度，メーカーの専門家を派遣し，保守管理の教育をしていただきたいと，チュニジア側から強い要望が出された。A－1 FORM（参考迄にコピーを添付，No.5）を正式にチュニジアの日本大使館を通じて提出された。

B) 供与機器の保守管理に必要な部品及び消耗品の供給に関して，チュニジア側は，将来に大きな不安をいだいている。この問題はチュニジアに限らず，全ての海外協力国について言える事であり，ＪＩＣＡとして，他国には，どの様に対処しているのか？と言う質問並びにチュニジアに対して，何らかの方法を考えて欲しいとの要望が出された。

V〕ＪＩＣＡへの要望事項

A）有効期限の切れた物品を送らない様に梱包時にＪＩＣＡでチェックしていただきたい……

５９年７月７日に空港に到着したものの中に，

ＴＳＩ agar の使用期限　５８年１１月２５日

ＳＩＭ agar　〃　５８年１１月２５日

Mannitol Self Agar　〃　５９年１月２６日

という具合に，６ヶ月以上も前に使用期限が切れているものが送られて来た。

B）どのように小さい簡単な機器にも英文又は現地語の取り扱い説明書をつける事を納入会社に義務づけていただきたい…… 今回も次の機器に日本語の取り扱い説明書しかついていなかった：全ての培地，電卓ばかり，粋破器，トヤマ式温湿計，電気式デシケーター，溶出試験の一部の機器，ウォーターバス，滅菌ロッカー，ｐＨメーター，テスラコイル等。

C）現地にて，修理可能にする為に，必ず電気配線図をつけることを義務づけていただきたい…… ミリポアのステリティテストのシステムが，着任した時すでに故障しており，修理しようにも，電気配線図が無い為に，先づ，フランスのミリポア社と連絡をとり，配線図を取り寄せる事から始めなければならなかった。

D）全ての機器について送る国の Voltage に適合しているか，又はトランスがついているかどうか梱包前に確認していただきたい…… Testa Coil は１００Ｖのものが送られ，トランスが入っていなかった為に，使用不可能であった。更にこの機器には取り扱い説明が全く入っていなかった。

E）専門家の携行機材は専門家の出発と同時に発送していただきたい…… チュニジアの場合は，空港到着後，研究所に配送される迄，無税手続きをしなければならない為に，非常に時間がかかり，少なやとも２ヶ月位，特にラマダン（今年は６月１日～３０日），夏休みの時期になると，更に時間がかかる可能性がある。短期派遣者の場合は，この点を考慮願いたい。

Ⅵ〕薬品品質管理システム

国立栄養研究所　医薬品，化粧品及び衛生用品品質管理部（ Laboratoire de Controle de Oualite des Medieaments, Cosmetics et Produits d' Hygiene ）の品質管理システムを図に示したものを参考迄に添付する（別紙No.６）。

Ⅶ〕その他

この研究室に関する記事が新聞に乗ったので添付する（別紙No.７）。

RÉPUBLIQUE TUNISIENNE

MINISTERE
DE LA SANTE PUBLIQUE

INSTITUT NATIONAL DE NUTRITION
ET DE TECHNOLOGIE ALIMENTAIRE

11, Rue Djebel Lakdhar (Bab Saâdoun)
Téléphone : 663 829
TUNIS

Tunis, le 15 AOUT 1984 19

SOCOTU
59, Rue du 18 Janvier 1952
TUNIS.

N° 840

Objet : Matériel en provenance du Japon, Yokohama par Bateau M/S "ARC AEOLOS" 5 Caisses équipement

Référence : Votre copie de lettre adressée à la CTN Dossier 139.498 MCH/AG du 31 Juillet 1984.

Messieurs,

Nous avons l'honneur d'accuser réception de la copie de votre lettre sus mentionnée.

Nous vous confirmons que nous avons bien receptionné quatre caisses sur les cinq caisses sus-citées en l'objet et que le manquant porte sur une caisse contenant un réfrégérateur pharmaceutique dont la description figure sur la copie de facture ci-jointe soit N° C/N° 1 Item N° 55 Médi-cool (vertical type) for storing reagent and médicine solution, MPR - 210 (Pharmaceutical freezer) valeur 200,000 yen soit : Sept cent cinquante neuf dinars (759 D) environ.

Nous vous prions de bien vouloir engager la procédure en vigueur pour que cette caisse nous soit livrée dans les meilleurs délais ou bien pour que le remboursement nous soit effectué par les assureurs concernés.

Veuillez agréer, Messieurs, l'expression de nos meilleurs sentiments.

Le Directeur

STATISTIQUES DES ECHANTILLONS RECUS AU LABORATOIRE POUR CONTROLE.

(Le Nombre d'échantillons représente le nombre de bulletins de contrôle émis par le laboratoire)

MEDICAMENTS

Année \ Mois	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D	Total
1981	43	-	2	5	2	1	1	1	3	1	12	1	72
1982	-	-	-	4	15	8	-	-	-	-	9	-	36
1983	15	23	1	4	1	2	-	-	-	-	-	1	47
1984	1	-	-	1	5	-	5						(12)

COSMETIQUES

Année \ Mois	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D	Total
1981	-	5	-	-	25	2	-	11	4	1	1	1	50
1982	-	-	5	7	4	-	1	-	1	10	-	-	28
1983	-	4	5	-	19	-	1	1	2	-	-	-	32
1984	-	1	6	1	1	2	8						(19)

PRODUITS D'HYGIENE

Année \ Mois	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	M	D	Total
1981	1	-	-	-	1	2	-	1	3	1	-	9	18
1982	-	-	7	-	2	1	1	-	-	-	-	1	12
1983	1	-	-	-	5	1	-	1	-	-	-	-	8
1984	-	-	-	-	-	-	1						(1)

INSTITUT NATIONAL DE NUTRITION
Laboratoires d'Analyses des Médicaments Cosmétiques et Produits d'Hygiène
Tél. : 583.799
11, Rue Ibn Jazzar Bab Saadoun 1944

(No. 3)

LABORATOIRE NATIONAL DE CONTROLE
DE QUALITE DES MEDICAMENTS, COSMETIQUES
ET PRODUITS D'HYGIENNE.

:-:-:-:-:-:-:-:-:-:-:

BUDGET - PROGRAMME ANNEE 1984

:-:-:-:-:-:-:-:-:-:-:

I- Jusqu'à présent, le budget alloué au service du Contrôle de de Qualité des Médicaments, Cosmétiques et Produits d'Hygiene (soit environ le quart du budget "Laboratoire" : 25 000 dinars par an) a servi au fonctionnement de la section chimie.

STATISTIQUES : Nombre d'analyses effetuées par an et previsions pour l'année 1984.

* Médicaments : 50 analyses par an en 83 ---- 100 analyses 1984
* Cosmétique :120 analyses par an en 83 ---- 200 analyses 1984
* Produits d'Hygiène : 50 anal./an en 83 ---- 100 analyses 1984.

En plus des analyses effectués à la demande du Ministère de la Santé Publique, Ministère de l'Economie Nationale et de certains producteurs particuliers, la section de chimie contribue à la mise au point de nouvelles méthodes d'analyses et de projets d'études.

Ci-joint : Les besoins de la section de chimie (déjà opérationnelle) pour l'année 1984.

EQUIPEMENT			FONCTIONNEMENT	
Article	Unité	P.T.	Article	P.T.
(*) Hottes d'extraction	1	3000 D.	Produits chimiques	3000 D.
Bureaux	11	1600 D.	Verrerie	2000 D.
Sièges et tabouret	11	600 D.	Solvants	2000 D.
Table de réunion	1	300 D.	Nat.première medts.	2000 D.
S Sièges pr.	11	600 D.		

(*) : Il s'agit de fixer les hottes existant au laboratoire et l'installation de turbines d'extraction.

PROJET DESIGNATION	EQUIPEMENT		FONCTIONNEMENT	
	Article	P.T.	Article	P.T.
Microbiologie	Armoire frigorifique 2 portes	1500 D	Verrerie Milieux Produits chimiques	1000 D/2 2000 D/2 1000 D.
Unité des Pyrogènes			Lapins de race pure 20 lapins par mois 1/2 D/	1000 D
ité de Biopharmacie			Lapins de race pure 20 lapins par mois 1/2 D.	1000 D/
Unité de Pharmacognosie	Meubles étanches (humidité et température) vitrés pour l'herbier	500D.	Petite instrumentation	1000 D.
Echantillothè-	Meubles étanches vitrés (humidité et température)	1000 D.		

INSTITUT NATIONAL de ...
Laboratoires d'Analyses des Médicaments Cosmétiques et Produits d'Hygiène
Tél. : 563.799
11, RUE BJEBEL LAKHDAR BAB SAADOUN TUNIS

(No. 4)

LABORATOIRE DE CONTROLE DES MEDICAMENTS
COSMETIQUES ET PRODUITS D'HYGIENE

-:-:-:-:-:-:-:-

PROGRAMME DE CONTROLE ANNEE 1984

-:-:-:-:-:-:-:-

I. MEDICAMENTS :

	Formes	Unités	Nombre de lots
Ampicilline	Gelules 250 mg 500 mg	100 100	4 "
Erythromycine	Dragées	100	"
Amikacine (Amiklin)	Injectable 250 mg 500 mg		
Aspirine	Comp. 500 mg mod. Hosp.	200	"
	Comp. 500 mg mod. Public	200	"
Aspirine pH 8	Comp.	200	"
Catalgix	Sachets Normal	"	"
Aspegic	Injectable Sachets 500 Mg	"	"
Griseofulvine	125 mg cp., mod.H. 250 mg cp. mod.H; 250 mg cp. Model Public	200 "	" "
Methyl Dopa	Comp. 250 mg modèle Hosp.	200	"
Aldomet	Comp. 250 mg mod. Pub.	200	"

.../...

TONICARDIAQUES :

Digitaline nativelle	Injectable 1 ml	24	4 Lots
Anti-Inflammatoires :			
Indomethacine	Gelules 15 mg fH	200	"
	Suppo 50 mg	200	"
	Gelules 25 mg F.Pub	200	"
Bronchodilatateurs :			
Aminophylline	Comp. 200 mg	200	"
Hypoglycemiants Oraux :			
Carbutamide	Comp. 500 mg mod. Hosp.	200	"
	Comp. 500 mg mod Pub.	"	"
Tolbutamide	Comp. 500 mg	"	"
Glibenclamide	Comp.	"	"
Sulfadiazine	Comp.	100	"
Sulfaguanidine	Comp.	100	"
Antituberculeux :			
Ethambutol	comp. 250 mg	200	"
Ethionamide	Comp. 250 mg	"	"
	Suppositoires	"	"
Isoniazide	Comp. 50 mg	"	"
	Comp. 150 mg	"	"
β-Bloquants :			
Propranolol (Avlocardyl)	Comp. 40 mg	"	"
	Injec. 1 mg	"	"

.../...

Antihypertenseurs Diuretiques :

Furosemide	40 mg Comp. F.Hosp. 40 mg F.Public 20 mg Injectable	200 " 	4 Lots "

Insulines:

Insuline 40 U.I.		20 fl.	"
Insuline Zn mixte		" "	"

ANTIPARKINSONIENS :

Levodopa	Gel. 125 mg Gel. 250 mg	100 200	" "
Amantadine (Atarax)	Gel. 100 mg	200	"

Psychotropes :

Diazepam (Valium)	Comp. 2 mg Comp. 5 mg Inj. 10 mg	200 " "	" " "
Nitrazepam (Mogadan)	Comp. 5 mg	"	"
Amitryptylline Elavyl (Laroxyl) Chlorpromazine Largactil	Comp. 10 mg Comp. 25 mg Comp. 100 mg Inj. 25 mg	" " " "	" " " "
Promethazine	Comp. 25 mg mode H Comp. 25 mg mod Pub. Sirop.	" "	" "

Anti-emetiques :

Metoclopamide	Sirop Injectable	5 200	" "

Vitamines :

Vit. B12 Cyanocobalamine	Inj. 100 1000	200	"
Vit. C Acide ascorbique	Inj. Comp.	" "	" "

.../...

Collyres :

Uveline		20	4 Lots
Vitaphakol		20 fl.	"
Sulfate d'Atropine	0.5 %	20 fl.	"
. modèle H	1 %		
. modèle P.			

Solutés Massifs :

Soluté isotonique de glucose fl. 500 ml	20	"
Soluté hypertonique à 10 % fl. 500 ml	20	"
Soluté hypertonique à 30 % (500 ml)	20	"

II. COSMETIQUES :

Shampoings :

Plusieurs marques
Dans différentes points de vente
6 échantillons de chaque

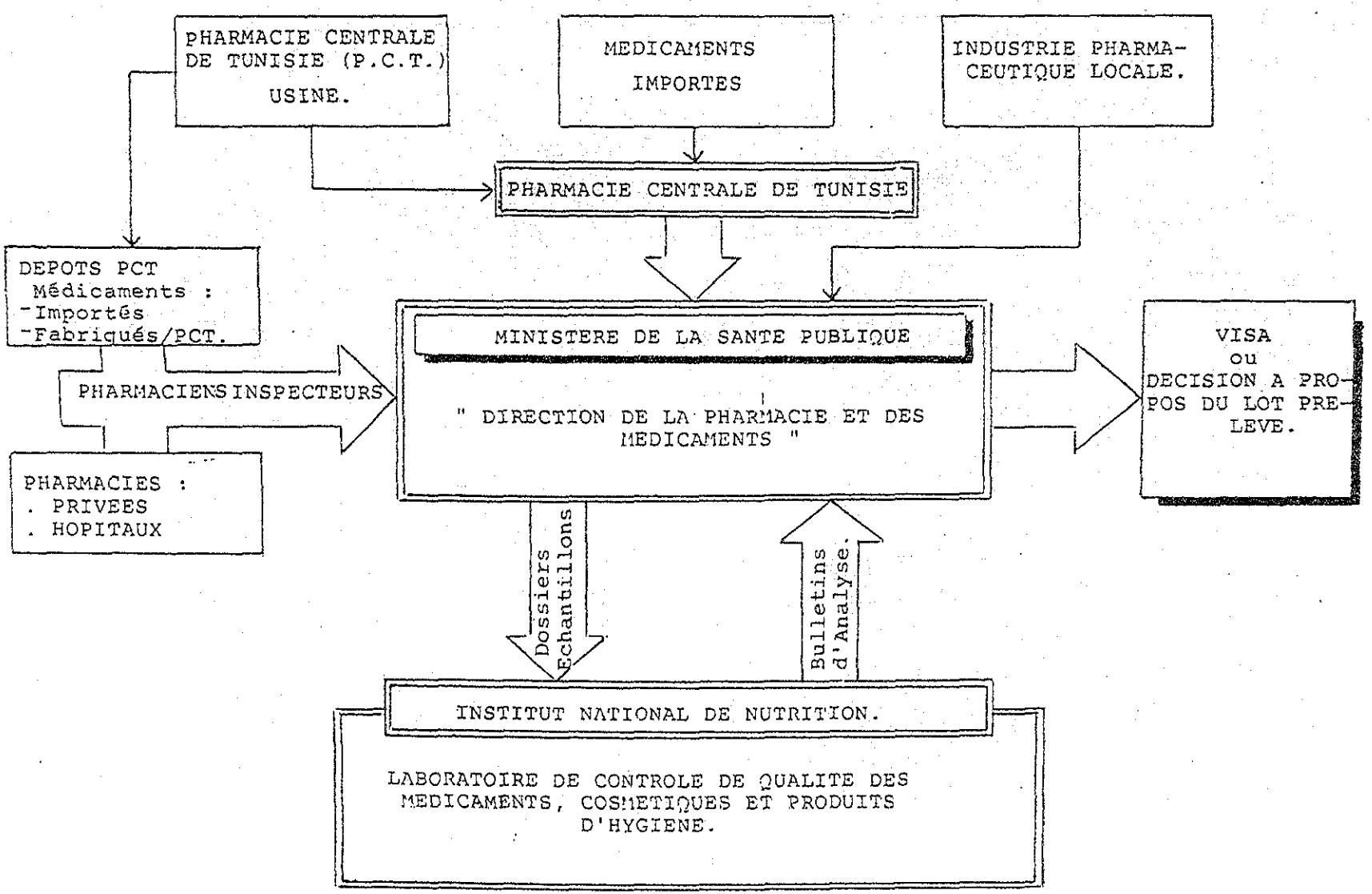
III. PRODUITS D'HYGIENE :

Eau de Javel :

Dans différentes points de vente
6 échantillons de chaque.

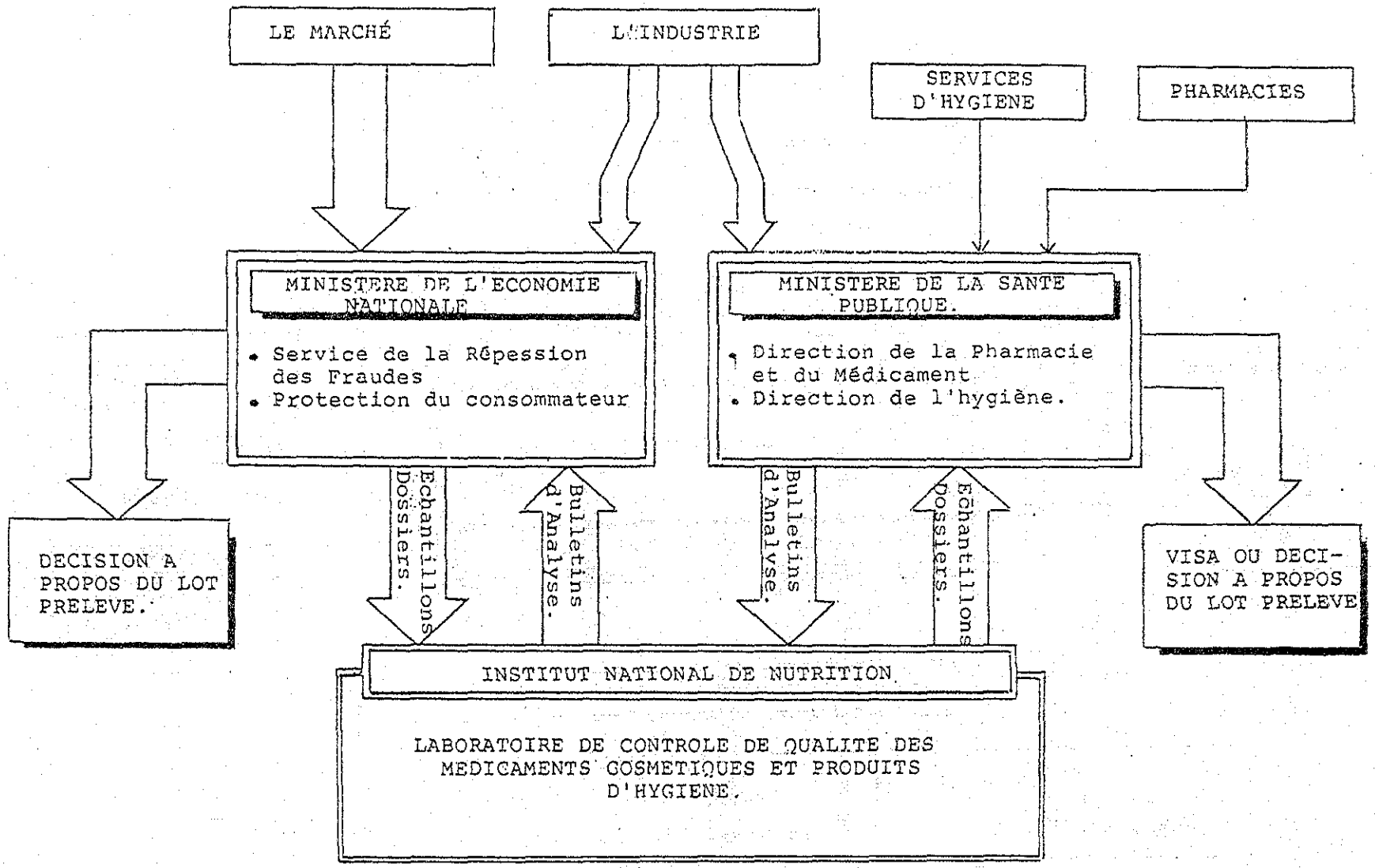
N.B. : (MICROBIOLOGIE)
Toutes les formes injectables sont concernées par le Test de stérilité.

SCHEMA DU SYSTEME DE CONTROLE DE QUALITE DES MEDICAMENTS
A USAGE HUMAIN ET VETERINAIRE (*)



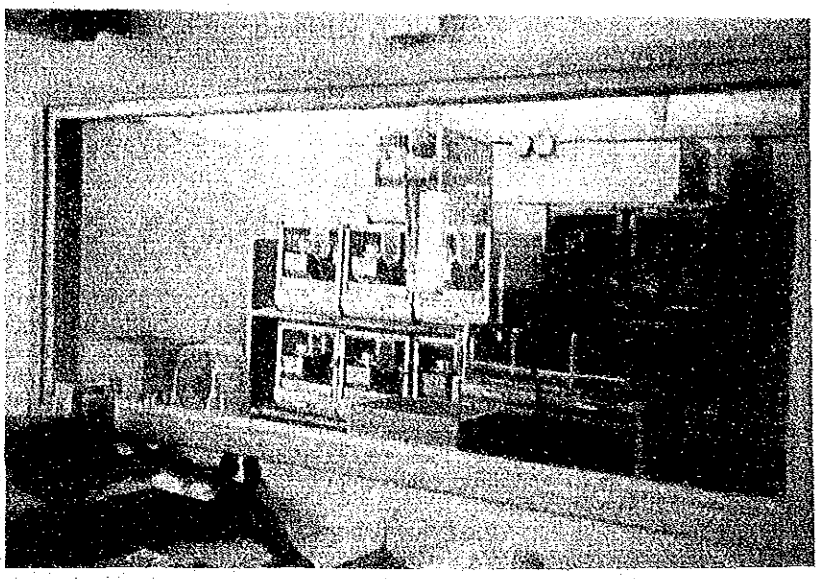
(*) Ce schéma a été établi en tenant compte des provenances des échantillons reçus au laboratoire de contrôle pendant les quatre dernières années 80 - 84.

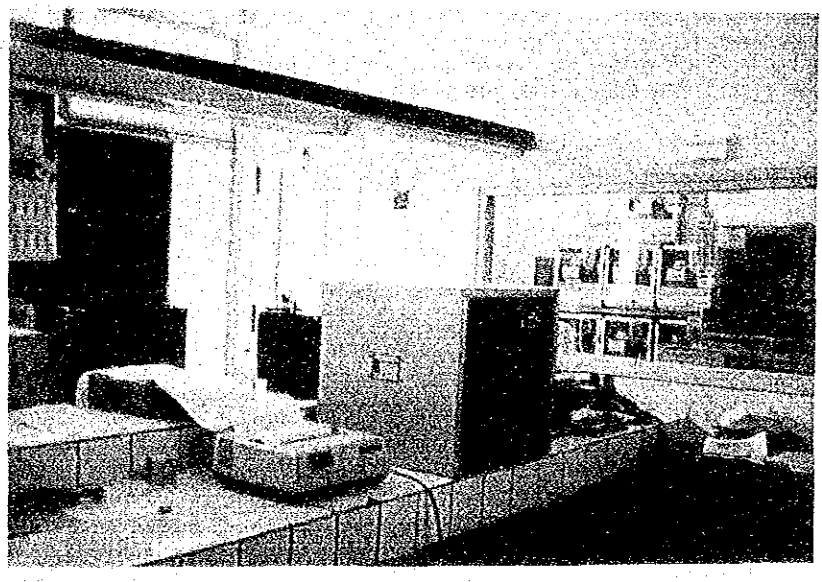
SCHEMA DU SYSTEME DE CONTROLE DE QUALITE DES COSMETIQUES ET PRODUITS D'HYGIENE (*)



(*) Ce schéma a été établi en tenant compte des provenances des échantillons reçus au Laboratoire de contrôle pendant les quatre dernières années 80-84.

薬品品質管理部の動物飼育室





LA PRESSE (Page 2) - 31 AOUT 1983

MEDICAMENTS

Un laboratoire tunisien référence pour les pays arabes

Le Laboratoire national de contrôle des médicaments est désormais un laboratoire référence pour tous les pays arabes. Cette décision prise par le conseil des ministres arabes de la Santé, dans sa huitième session (début août 83) montre la valeur technique de cette institution pourtant encore peu connue, même des Tunisiens.

Créé en 1979 au sein de l'Institut national de nutrition à Tunis, ce laboratoire est encore inachevé. Mais il fonctionne d'une manière régulière. Equipé du plus récent matériel japonais ce laboratoire a pour tâche de contrôler sur demande du ministère de la Santé publique, la composition et la validité de tous les médicaments, les produits cosmétiques et les produits d'hygiène mis sur le marché tunisien. Ses prérogatives s'étendent même aux produits fabriqués en Tunisie et normalement contrôlés par le laboratoire de la Pharmacie Centrale.

Le ministère de l'Economie nationale peut également lui demander assistance pour le contrôle de certains produits chimiques mis en vente.

Grâce à une chambre stérile qui va y être installée bientôt le laboratoire pourra procéder à des analyses compliquées telles que celles des antibiotiques.

Ce laboratoire sera également une institution de recherche et de formation ouverte à tous les chercheurs et pharmaciens arabes. Onze pharmaciens y travaillent actuellement après plusieurs stages de formation notamment au Japon.

La création de ce laboratoire est très prometteuse et rassurante pour les consommateurs des produits chimiques d'autant plus que nous savons que 1500 médicaments se vendent dans nos pharmacies alors que l'Organisation mondiale de la santé (OMS) a maintes fois souligné que seuls 200 médicaments sont indispensables pour les pays en voie de développement. Aussi ce laboratoire aidera-t-il le ministère de la Santé à mieux trier et limiter les produits. On attend l'installation définitive du laboratoire pour voir se dessiner une procédure de travail et de concertation systématique entre le ministère et le laboratoire. Celui-ci devrait aussi avoir d'une manière régulière droit de suivi sur ses décisions afin que son action soit plus efficace et réellement protectrice pour le citoyen.

S.C.

第 3 部

資　　料

資料１　大学教授等の保健医療講演等派遣計画による派遣専門家一覧（昭和４５年度～５７年度，派遣総数３０４名）

No.	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
	45年度　4名							
1	馬島秀麿	M0	産婦人科学	ヴェトナム	チョーライ病院	1971.4.8～4.23(16)		日本大学医学部教授
2	石川七郎	M0	ガン外科	タイ	ガンセンター	1971.2.2～2.11(10)		國立ガンセンター病院長
3	朝比奈正二郎	M0	寄生虫学	エティオピア	中央衛生研究所	1970.11.30～12.14(15)		國立予防衛生研究所衛生昆虫部長
4	石崎逸	M0	〃	〃	〃	〃　(15)		〃　寄生虫部長
	46年度　7名							
5	水野祥太郎	M0	産婦人科・整形外科	アフガニスタン	國立ワシィールアフハールバン病院	1971.12.9～12.23(15)		川崎医科大学教授
6	白羽弥右衛門	M0	外科学	セイロン	セイロン総合病院	1971.7.24～8.13(21)		大阪市立大学医学部教授
7	金井清次	M4	脳外科	ヴェトナム	チョーライ病院	1971.8.15～8.28(15)		上野原町立病院医師
8	藤井寅夫	M1	脳神経外科	〃	〃	1971.12.2～12.11(10)		〃　院長
9	森安信雄	M1	〃	〃	〃	〃　(10)		日本大学医学部教授
10	辻義人	M1	ウィルス学	ガーナ	ガーナ大学医学部	1971.12.17～1972.1.14(29)		福島県立医科大学教授
11	竹内正	M0	臨床病理	中華民國	台湾大学	1971.8.20～8.30(11)		日本大学医学部教授
	47年度　10名							
12	福島英雄	M1	フィラリア対策	韓国	延世大学	1972.12.3～12.23(21)		鹿児島大学医学部
13	福見秀雄	M1	検疫／公衆衛生	〃	保健省	1973.3.5～3.12(8)		國立予防衛生研究所
14	浅野一雄	M2	〃	〃	〃	〃		厚生省検疫課長
15	今野草二	M2	心臓外科	インドネシア	ジャカルタ中央病院	1973.1.21～2.21(33)		東京女子医科大学教授
16	高梨吉則	M5	〃	〃	〃	〃　(33)		〃
17	宮崎一郎	M0	肺吸虫症対策	ペルー	ペルー大学	1972.9.9～10.8(31)		無職
18	村上忠重	M0	早期ガン診断	ペルー他4ケ国*	ペルーガン研究所他	1973.3.2～3.26(25)		東京医科歯科大学教授
19	熊倉賢二	M1	〃	〃	〃	〃　(25)		ガン研究会附属病院
20	岡部治弥	M1	〃	〃	〃	〃　(25)		北里大学医学部
21	鈴木晃	M4	業務調整	〃	〃	〃　(25)		ＯＴＣＡ医療協力部職員
	48年度　9名							
22	宮下俤	M1	胸部外科	インドネシア	プロサハバタン病院	1973.7.26～8.25(31)		(財) 結核予防会外科長
23	城所仂	M0	内視鏡	パラグアイ，ウルグアイ，メキシコ	早期癌診断協力巡回チーム	1973.11.24～12.18(25)		〃　臨床検査科長
24	信田重光	M1	病理学	〃	〃	〃　(25)		〃

*コロンビア，チリ，ブラジル，アルゼンチン

No	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
25	土井偉誉	M2	放射線診断学	パラグァイ，ウルグァイ，メキシコ	早期癌診断協力巡回チーム	1973.11.24～12.18(25)		国立癌センター放射線診断部長
26	加納保之	M0	業務調整	ラオス・タイ	タゴン医療センター他	1973.10.19～11.8(21)		国立霞ケ浦病院長
27	多田功	M3	オンコセルカ症	グアラマラ	厚生省	1973.11.27～1974.1.27(60)		金沢医科大学教授
28	南一守	M1	ウィルス学及び電子顕微鏡	ガーナ	ガーナ大学医学部	1974.1.31～2.22(23)		福島県立医科大学助教授
29	中島章	M0	眼科学	リビア	リビア大学医学部	1974.2.22～3.6(13)		順天堂大学医学部教授
30	大國真彦	M1	小児学	〃	〃	〃		日本大学医学部教授
	49年度 9名							
31	林都志夫	M0	歯科学	ビルマ	ビルマ歯科大学	1975.3.24～4.2(10)		東京医科歯科大学教授
32	藤原留造	M0	ウィルス学	ガーナ	ガーナ大学医学部	1975.3.30～4.14(16)		福島県立医科大学教授
33	大原徳明	M0	感染症	〃	〃	〃		〃
34	塩沢正俊	M0	胸部外科	インドネシア	ブルサハバタン病院	1974.8.4～1974.9.3(30)		結核予防会附属養療所顧問
35	中村恭一	M2	がん病理学	ブラジル	不明	1974.8.28～9.22(26)		がん研究所主任研究員
36	黒岩幾五郎	M0	神経病学	フィリピン・タイ	〃	1974.9.24～10.6(13)		九州大学医学部教授
37	水野祥太郎	M0	整形外科	アフガニスタン	〃	1974.10.23～1974.11.1		川崎医科大学学長
38	中山恒明	M0	消化器がん	エルサルバドル	〃	1974.12.1～12.12(12)		東京女子医科大学付属消化器病早期がんセンター所長
39	雛波政士	M0	ハンセン氏病	パラグアイ	〃	1975.3.19～3.31(13)		国立多摩研究所長
	50年度 13名							
40	勝木保次	M0	生理学	ナイジェリア	ナイジェリ大学，イフェ大学	1975.5.22～6.5(15)		東京医科歯科大学学長
41	佐藤喜一	M0	病理学	〃	〃	〃		〃 助教授
42	原義雄	M0	消化器	ブラジル	がん学会	1975.7.20～7.28(9)		都立駒込病院副院長
43	堀江昌平	M0	胸部診断	アルゼンティン	〃	1975.9.29～10.7(9)		独協医科大学教授
44	林薫	M0	ウィルス	ケニア	ケニヤッタ病院	1975.11.6～11.26(21)		長崎大学熱帯医学研究所教授
45	林貞雄	M2	内視鏡	パナマ・ヴェネズエラ	不明	1975.11.17～12.1(15)		日大病院内視鏡センター室長
46	桜井勇	M2	病理学	〃	〃	〃		〃 生検室長
47	西滿正	M1	胃がん治療	ドミニカ・コロンビア	〃	1976.3.7～3.20(14)		鹿児島大学医学部第一外科教室
48	栗原稔	M2	〃	〃	〃	〃		順天堂大学医学部内科
49	鈴木淳	M1	地域医療	チュニジア	〃	1976.3.20～3.28(9)		琉球大学付属病院
50	今井康晴	M2	心臓外科	フィリピン・インドネシア	〃	1976.2.12～3.16(34)		東京女子医科大学
51	榊原高之	M5	〃	〃	〃	〃		心臓血圧研究所
52	北村信夫	M4	〃	〃	〃	〃		東京都立病院

No	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時肩書
	51年度 20名							
53	大井 至	M3	内視鏡	エジプト	カイロ大学	1977.3.28～5.8(42)		東京女子医科大学消化器病センター
54	村尾 誠	M0	公衆衛生	パプアニューギニア	厚生省	1977.3.26～4.5(11)		北海道大学医学部
55	重松逸造	M0	〃	〃	〃	〃		国立公衆衛生院疫学部長
56	林 薫	M0	保健医療事情調査	マレイシア	保健省	1977.3.29～4.10(13)		長崎大学熱帯医学研究所
57	青山友三	M1	〃	〃	〃	〃		東京大学医科学研究所
58	林 貴雄	M2	内視鏡	ホンジュラス	中米内視鏡会議	1976.11.28～12.9(12)		日本大学板橋病院内視鏡センター
59	小林 登	M1	小児外科	コスタリカ	小児外科学会	1976.11.25～12.6(12)		東大病院小児科
60	村松 稔	M0	ASEAN人口問題会議オブザーバー	マレーシア	外務省	1976.11.23～11.27(5)		国立公衆衛生院衛生人口学部
61	小林利次	M2	超音波医学	ユーゴスラビア	不明	1976.10.25～11.11(18)		国立がんセンター病院内科生理検査室
62	本多憲児	M0	外科学	ガーナ	ガーナ大学医学部	1976.10.27～11.10(15)		福島県立医科大学
63	藤原留造	M0	免疫細菌学	〃	〃	1976.10.27～11.15(20)		〃
64	相馬 智	M1	内視鏡他	アルゼンティン	消化器系セミナー	1976.11.26～12.14(19)		杏林大学医学部
65	丸山雅一	M3	X線他	〃	〃	〃		(財)癌研究会付属病院
66	大瀬貴光	M0	国連アフリカ経済委	オートボルタ	オンコセルカ症基金委員会	1976.11.28～12.8(11)		元WHO上級アドヴァイザー
67	芦沢真六	M0	内視鏡	シンガポール	保健省	1977.2.21～3.5(13)		東京医科大学病院
68	酒井義浩	M3	〃	〃	〃	〃		〃
69	島尾忠男	M0	結核対策	タンザニア	結核対策国際会議	1977.2.16～3.2(15)		(財)結核予防会結核研究所
70	岡島邦雄	M1	外科学	コスタリカ	国際外科学会	1977.2.4～2.17(14)		岡山大学医学部
71	岡部治弥	M0	消化器内科	エクアドル，コロンビア	放射線学会	1977.2.4～2.24(21)		北里大学医学部
72	田島 強	M2	〃	〃	〃	〃		東京都立駒込病院
	52年度 20名							
73	重松峻夫	M1	癌病学	インド	保健省	1978.3.26～4.23(29)		福岡大学医学部教授
74	新 太郎	M1	〃	〃	〃	〃		岡山大学医学部付属病院講師
75	川崎高作	M2	小児科学	パキスタン	〃	1978.3.22～4.3(13)		日本赤十字社医療センター小児科部長
76	塩沢正俊	M0	胸部外科	ビルマ	〃	1977.5.23～6.4(13)		(財)結核予防会結核研究所付属療養所顧問
77		M0	〃	インドネシア	胸部外科学会	1977.8.4～8.14(11)		〃
78	高久史麿	M1	血液学	トルコ	イスタンブール大学	1977.8.28～9.11(15)		自治医科大学教授
79	山元寅男	M1	電子顕微鏡	タンザニア	ダルエスサラーム大学	1977.7.14～8.5(23)		九州大学医学部教授
80	渡辺富雄	M1	法医学	ホンジュラス	ホンジュラス最高裁判所	1977.9.14～9.28(15)		昭和大学医学部教授
81	栗原俊郎	M1	〃	〃	〃	〃		法務省矯正局医療分類課長
82	磯上隆男	M2	歯科学	ジャマイカ	保健省	1977.12.4～12.20(17)		東京歯科大学教授
83	春日井達造	M0	内視鏡	メキシコ	癌学会	1977.10.7～10.15(9)		愛知県がんセンター病院副院長

No.	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
84	外山敏夫	M0	衛生学	ニカラグア	国立自治大学	1977.12.5～12.20(16)		慶応大学医学部教授
85	鳥飼勝隆	M2	内科学	〃	〃	〃		〃 助教授
86	堀田進	M0	疫学	プエルトリコ	国際疫学会	1977.9.16～9.25(10)		神戸大学医学部教授
87	村上忠重	M0	消化器病学	ペルー，チリ	サンマルコス大学，チリ大学	1977.6.9～6.28(20)		東京医科歯科大学医学部第一外科講長
88	小黒八七郎	M1	〃	〃	〃	〃		国立がんセンター病院外来部内科医長
89	村松稔	M0	人口問題	イギリス	人口問題関係会議	1977.4.25～5.1(8)		国立公衆衛生院人口学部長
90	中山恒明	M0	消化器外科学	ドミニカ	外科学会	1978.2.11～2.21(11)		中山がん研究所長
91	木下祐宏	M1	〃	〃	〃	〃		東京女子医大消化器病センター医師
92	川喜田愛郎	M0	医学教育史	エジプト	カイロ大学	1978.3.16～3.26(11)		千葉大学名誉教授
	53年度 21名							
93	小石秀雄	M0	保健医療事情調査	ネパール	文部省，厚生省	1979.3.17～4.5(20)		大阪市立大学生活科学部長
94	大磯敏夫	M0	〃	〃	〃	〃		(財)日本国際医療団理事
95	西元寺克礼	M3	胃内視鏡学	コロンビア	ロザリオ大学付属サンホセ病院	1979.3.19～4.4(17)		北里大学内科学講師
96	比企能樹	M1	〃	〃	〃	〃		〃 助教授
97	駿河敬次郎	M0	医療事情調査	サンビア	不明	1978.6.19～6.28(10)		順天堂大学医学部教授
98	竹内正	M0	病理学	インドネシア	〃	1978.9.10～9.16(7)		日本大学医学部教授
99	加藤正明	M0	病院の設置に係る調査	ペルー	厚生省	1978.9.23～10.2(10)		国立精神衛生研究所長
100	高木輝	M0	病院整備計画に係る調査	リベリア	〃	1978.9.17～10.15(29)		鳥取大学医学部
101	鈴木和男	M0	学術講演	ブラジル	文部省	1978.11.27～12.23(27)		東京歯科大学主任教授
102	内藤正明	M0	環境計画	イラク	保健局他	1979.3.9～3.30(22)		国立公害研究所主任研究員
103	橋本道夫	M2	〃	〃	〃	〃		筑波大学
104	関場香	M0	産婦人科学	タンザニア	ダルエスサラーム大学医学部	1979.3.3～3.12(10)		岡山大学医学部
105	太田善介	M1	内科学	〃	〃	〃		〃
106	藤岡毅雄	M1	内科学	コスタリカ	国立小児病院他	1979.2.26～3.13(16)		兵庫県立尼崎病院副院長内科部長
107	川崎富作	M1	小児科学	〃	〃	〃		日本赤十字社医療センター第一小児科部長
108	重松稔	M0	公衆衛生学	マレーシア	第6回SEAMICワークショップ	1979.2.11～2.21(11)		北里大学医学部教授
109	開原成允	M0	医療情報	〃	〃	〃		東京大学医学部付属病院助教授
110	小林登	M1	小児科学	ケニア	アフリカ地域小児科学会	1979.2.17～2.26(10)		東京大学医学部教授
111	田中勝	M3	環境衛生工学	エジプト	アレキサンドリア大学付属高等公衆衛生研究所	1979.2.5～2.21(17)		国立公衆衛生院衛生工学部
112	春日井達造	M0	消化器内視鏡学	ビルマ	ラングーン医科大学	1979.2.5～2.18(14)		愛知県がんセンター病院第1内科部長
113	藤田力也	M2	〃	シンガポール	シンガポール総合病院	1979.1.14～1.28(15)		昭和大学藤が丘病院助教授

No.	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
	54年度 21名							
114	有山 襄	M2	消化器外科学	アルゼンティン	不明	1979.9.28～10.13(16)		順天堂大学医学部講師
115	斉藤洋一	M1	〃	〃	〃	〃		神戸大学医学部教授
116	坂部 孝	M0	〃	ブラジル	〃	1979.4.27～5.9(13)		日本大学医学部教授
117	若生 宏	M0	母子栄養学	インドネシア	〃	1979.9.20～9.30(11)		岩手医科大学医学部長
118	久道 茂	M2	消化器内科学	コスタリカ	〃	1979.8.26～9.7(13)		(財)宮城県対がん協会検診センター所長
119	藤橋 侃	M2	産婦人科学	ブラジル	〃	1979.8.24～9.3(11)		慶応大学医学部助教授
120	岡本英三	M1	消化器外科学	チリ	〃	1979.10.26～11.5(10)		兵庫医科大学教授
121	菓原 稔	M2	消化器内科学	ボリヴィア	〃	1979.11.1～11.10(10)		東邦大学医学部消化器センター講師
122	中瀬安清	0	予防接種	インドネシア	〃	1979.11.24～12.2(9)		北里大学薬学部教授
123	津田良成	1	医療情報学	タイ	〃	1979.11.26～12.5(10)		慶応大学文学部教授
124	大橋 誠	M1	疫学	〃	〃	1979.11.26～12.8(13)		東京都立衛生研究所微生物部長
125	喜納 勇	M1	病理学	ペルー	〃	1979.11.25～12.10(16)		浜松医科大学教授
126	朝倉 均	M2	消化器内科学	〃	〃	〃		慶応大学病院医長
127	大橋計彦	M3	放射線診断学	〃	〃	〃		癌研究会付属病院内科
128	大原徳明	M0	病態生理学	ガーナ	〃	1979.11.21～12.4(14)		福島県立医科大学教授
129	本多憲児	M0	外科学	ドミニカ	〃	1980.2.12～2.19(8)		〃
130	千葉 淳	M2	〃	〃	〃	〃		〃 助教授
131	松本喪蔵	M1	微生物学	コロンビア	〃	1980.3.11～3.25(15)		長崎大学熱帯医学研究所教授
132	大森喜太郎	M3	形成外科学	マレーシア	〃	1980.3.17～3.23(7)		東京警察病院副院長
133	西沢 譲	M1	消化器内科学	ボリヴィア	〃	1980.3.26～4.7(13)		東京都がん検診センター診断部長
134	菓原 稔	M2	〃	ボリヴィア，パナマ，コスタリカ		1980.3.25～4.11(18)		順天堂大学医学部講師
	55年度 22名							
135	武藤徹一郎	M2	消化器外科学	アルゼンティン	国際学会	1980.4.24～5.8(15)		東京大学付属病院医員
136	堺 隆弘	M2	〃	〃	〃	1980.4.26～5.5(10)		東京大学医学部助手
137	村松 稔	M0	家族計画	タイ	公衆衛生省	1980.4.8～4.12(5)		国立公衆衛生院衛生人口学部長
138	中村治雖	M1	成人病学	ブラジル	カトリック大学成人病研究所	1980.7.27～8.3(8)		東京慈恵会医科大学付属青戸分院内科
139	宮原 正	M0	神経内科学	コスタリカ	社会保障庁	1980.7.31～8.13(14)		〃 教授
140	高倉 巌	M1	小児感染症	〃	〃	〃		東海大学医学部助教授
141	小川秀興	M2	皮膚科学	タイ	皮膚科学研究所	1980.8.3～8.17(15)		順天堂大学医学部助教授
142	川井啓市	M1	消化器病学	パラグアイ	消化器病学会	1980.8.23～9.1(10)		京都府立医科大学教授
143	原科孝雄	M2	マイクロ・サージェリー	ブラジル，ウルグアイ	聞立バスドゥール総合病院	1980.8.23～9.13(22)		慶応義塾大学医学部講師
144	藤野豊美	M1	〃	〃	〃	〃		〃 助教授

番	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣機間（日）	区分	赴任時現職
145	斉藤　誠	M0	第8回SEAMICセミナー	シンガポール	東南アジア医療情報センター	1980.9.2～9.7(6)		東京都立墨東病院長
146	中村明子	M1	〃	〃	〃	1980.9.2～9.14(13)		国立予防衛生研究所主任研究官
147	藤田力也	M1	消化器内視鏡	ドミニカ	消化器病学会	1980.10.11～10.27(17)		昭和大学藤が丘病院助教授
148	丸山雅一	M2	消化器がん診断	ヴェネズエラ	厚生省	1980.11.1～11.16(17)		（財）癌研究会付属病院内科医長
149	田中隆一	M1	神経外科	レバノン	神経外科学会	1980.11.11～11.18(8)		新潟大脳研究所教授
150	松江寛人	M1	医療講演	ペルー	胃腸学会	1980.11.14～11.25(12)		国立がんセンター第二放射線医長
151	梅田典嗣	M1	〃	〃	〃	〃		国立病院医療センター消化器科局長
152	曽我　淳	M1	消化器がん治療	チリ	外科学会	1980.11.17～12.8(22)		新潟大学医療技術短大部
153	石川達也	M1	医療講演	〃	国際歯科口腔学会	1980.11.19～12.1(13)		東京歯科大学教授
154	大森清弘	M1	〃	〃	〃	〃		〃
155	浦沢玲児	M1	低体温麻酔下開心術	大韓民国	ソウル特別市延世大学	1981.1.21～1.30(10)		岩手医科大学教授
156	新津勝弘	M0	〃	〃	〃	〃		〃
	56年度　29名							
157	三島済一	M0	眼科学	バングラデシュ	眼科学会	1982.1.25～2.3(10)		東京大学医学部教授
158	大磯敏雄	M0	SEAMICワークショップ	マレーシア	東南アジア医療情報センター	1982.3.15～3.20(6)		（財）日本国際医療団理事
159	山口賢治	M1	〃	〃	〃	1982.3.14～3.20(7)		国立栄養研究所部長
160	大磯敏雄	M0	医療講演	ネパール	小児学会	1981.12.27～1982.1.3(8)		（財）日本国際医療団理事
161	川崎富作	M0	〃	パキスタン	〃	1982.1.29～2.7(10)		日本赤十字社医療センター部長
162	稲臣成一	M0	〃	スーダン	カルツーム大学	1982.2.22～3.18(25)		岡山大学医学部教授
163	金敬泰弘	M0	〃	〃	〃	〃		〃
164	藤田力也	M1	〃	アルゼンティン	胃内視鏡学会	1981.10.9～10.28(20)		昭和大学藤が丘病院助教授
165	西沢　護	M1	〃	〃	〃	1981.10.8～10.26(19)		東京都がん検診センター副所長
166	岡田利邦	M2	〃	〃	〃	〃		〃　内科医長
167	丸山俊秀	M3	〃	〃	〃	1981.10.16～11.4(20)		順天堂大学助手
168	竹内　正	M0	〃	ボリヴィア	ラ米病理学会	1981.10.24～10.30(7)		山梨医科大学副学長
169	田中　昇	M0	〃	〃	〃	1981.10.21～11.2(12)		千葉県がんセンター研究局長
170	本多慈児	M0	緊急医療	ブラジル	緊急医療学会	1981.5.23～6.5(13)		福島県立医科大学教授
171	和田寿郎	M0	医療講演	〃	国際外科学会	1981.11.5～11.14(10)		東京女子医科大学教授
172	遠藤光夫	M1	〃	〃	〃	1981.11.10～11.15(5)		〃
173	佐藤貞勝	M0	〃	〃	歯科学会	1982.1.19～2.2(15)		佐藤歯科診療所長
174	長谷川　博	M0	〃	チリ，ペルー	外科学会	1981.11.12～11.26(15)		国立がんセンター外来部長
175	西　満正	M0	〃	コロンビア	ロサリオ大学	1981.11.8～11.16(9)		鹿児島大学医学部教授
176	藤田力也	M1	〃	ドミニカ	厚生省	1982.2.10～2.21(12)		昭和大学藤が丘病院助教授

No.	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
177	服部　淳	M0	医療講演	エクアドル	心臓学会	1981.11.19～11.30(12)		関東逓信病院部長
178	五味昭彦	M3	〃	〃	〃	〃		〃　医長
179	東島　功	M2	〃	〃	〃	〃		荒医院医員
180	鈴木　守	M2	マラリア対策	ハイティ	SNEM	1981.12.1～1.2(33)		群馬大学教授
181	稲葉啓雄	M2	医療講演	ホンヂュラス	厚生省	1981.12.4～12.19(16)		東京慈恵会医科大学講師
182	林　貴雄	M1	〃	ニカラグア	保健省	1981.9.7～9.16(10)		日本大学板橋病院医長
183	丸山雅一	M2	〃	メキシコ	メキシコ国直腸鏡学会	1981.9.11～9.22(12)		(財)癌研究会付属病院医長
184	保母須弥也	M1	〃	ペルー	補綴学会	1981.5.29～6.21(14)		東北歯科大学教授
185	三木　誠	M1	〃	フィジー	厚生省	1982.1.18～1.31(14)		東京慈恵会医科大学助教授
	57年度　35名							
186	曲直部寿夫	M0	循環器病学	大韓民国	釜山大学医科大学	1982.10.18～10.24(7)		国立循環器病センター病院長
187	藤田　毅	M0	〃	〃	〃	〃		〃　部長
188	小泉　明	M0	公衆衛生学	〃	ソウル大学保健大学院	1982.10.19～10.22(4)		東京大学医学部教授
189	竹尾和典	M0	生化学	〃	釜山大学医科大学	1982.10.19～10.29(11)		山口大学医学部教授
190	藤本正憲	5	〃	〃	〃	〃		〃　技官
191	三輪谷俊夫	M0	微生物学	〃	〃	1982.10.28～11.4(7)		大阪大学微生物研究所教授
192	田中平三	M2	公衆衛生学	〃	〃	1982.11.15～11.22(8)		大阪市立大学医学部助教授
193	大橋　誠	M1	微生物学	フィリピン	第10回SEAMICセミナー	1982.1.28～2.5(9)		東京都立衛生研究所微生物部長
194	小川秀興	M2	皮膚科学	タイ	国立皮膚科学研究所	1982.7.24～8.7(14)		順天堂大学医学部教授
195	深井孝之助	M0	防疫学	〃	第10回SEAMICワークショップ	1982.9.29～9.12(11)		大阪大学微生物病研究所教授
196	田中恒男	M0	保健管理学	〃	〃	〃		東京大学医学部教授
197	島尾忠男	M0	結核対策	クウェイト	厚生省	1982.2.3～2.8(6)		(財)結核予防会結核研究所長
198	鈴木　守	M1	マラリア対策	スーダン	〃	1982.8.3～9.2(23)		群馬大学医学部教授
199	五十嵐郁男	5	〃	〃	〃	〃		〃　研究生
200	川村光毅	M1	解剖学	ガーナ	ガーナ大学	1982.11.1～11.30(30)		岩手医科大学教授
201	板倉英世	M1	病理学	〃	〃	1982.2.27～3.28(30)		長崎大学熱帯医学部研究所教授
202	武藤徹一郎	M1	消化器外科学	アルゼンティン	第8回腸ガンアルゼンティン国際学会	1982.11.19～12.19(31)		東京大学医学部助教授
203	中村恭一	M1	病理学	ボリヴィア，チリ	病理学会，外科学会	1982.11.5～11.22(18)		筑波大学基礎医学系教授
204	折茂　肇	M1	成人病学	ブラジル	カトリック大学成人病研究所	1982.7.18～7.28(11)		東京大学医学部助教授
205	中村治雄	M1	〃	〃	〃	1982.7.25～8.2(9)		東京慈恵会医科大学青戸分院助教授
206	島田彰夫	3	〃	〃	〃	1982.11.11.～1983.2.28(120)		秋田大学医学部助手
207	東海林芳郎	M1	歯科学	〃	根管治療学会	1982.9.11.～9.24(14)		ショージ歯科医院長
208	丸山雅一	M2	消化器内科学	チリ	胃腸病学会	1982.11.22～12.6(25)		癌研究会付属病院内科医長

No.	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
209	中村恭一	M1	病理学	チリ	第三国研修	1983.3.18～4.4(18)		筑波大学基礎医学系教授
210	渡辺英伸	M1	〃	〃	〃	〃		新潟大学医学部教授
211	清成秀紀	M1	消化器内科学	〃	〃	1983.3.4～4.7(35)		国立病院九州がんセンター医長
212	下原康生	M1	神経解剖学	コロンビア	コロンビア神経病研究所	1982.4.10～5.9(30)		愛媛大学医学部教授
213	田中寛	M0	マラリア対策	ホンジュラス	厚生省	1982.7.19～8.2(15)		東京大学医科学研究所教授
214	安野正之	2	〃	〃	〃			国立公害研究所室長
215	藤田力也	M1	消化器内科	メキシコ	メキシコ消化器内視鏡学会	1982.9.13～9.21(9)		昭和大学藤が丘病院助教授
216	羽生富士夫	M0	〃	〃	グアダラハラ州立大学	1983.1.22～1.28(7)		東京女子医科大学消化器病センター教授
217	遠藤光夫	M1	〃	〃	〃	1983.1.22～1.29(8)		〃
218	駿河敬次郎	M0	小児科学	パラグァイ	アスンシオン国立大学	1982.11.24～12.1(9)		順天堂大学医学部教授
219	山田達哉	M0	消化器内科学	ペルー	厚生省	1982.11.19～11.30(12)		国立がんセンター放射線診断部長
220	小林茂雄	M2	〃	〃	〃	〃		順天堂大学医学部助手
	58年度 39名							
221	山田達哉	M0	放射線診断	エクアドル	エクアドル胃腸病学会	1983.4.19～5.2(14)		国立ガンセンター放射線診断部長
222	吉森正喜	M2	消化器内科学	〃	胃ガン早期診断セミナー	1983.4.19～5.2(14)		〃 内視鏡部
223	網野信行	M2	免疫学	ヴェネズエラ	保健省公共衛生庁	1983.7.22～8.2(12)		大阪大学医学部
224	五島雄一郎	M1	成人病学	ブラジル	カソリック大学	1983.7.16～7.25(10)		東海大学付属病院長
225	兼本成斌	M2	〃	〃	〃	1983.7.22～8.4(14)		〃 医学部内科学講師
	〃							
226	保母須弥也	M1	補綴学	アルゼンティン，ブラジル	ブエノスアイレス大学他	1983.7.26～8.7(13)		国際デンタルアカデミー所長
227	大沢仁	M3	消化器内科学	メキシコ	内視鏡学会主催講演会	1983.9.9～9.21(13)		東京大学医学部付属病院分院助手
228	小黒八七郎	M1	消化器内視鏡	ペルー	第8回ペルーガン学会	1983.9.16～9.26(11)		国立ガンセンター病院内科医長
229	浦井昭	M0	化学療法	〃	国際ガン対策学会	1983.9.16～9.24(9)		東北大学医学部教授
230	中村恭一	M1	病理学	〃		1983.9.16～9.23(8)		筑波大学基礎医学系教授
231	朝倉均	M1	消化器内科学	アルゼンティン	アルゼンティン消化器病学会，消化器内視鏡学会	1983.9.3～9.23(11)		慶応義塾大学医学部
232	渡辺英伸	M1	病理学	〃		〃		新潟大学医学部教授
233	西岡久寿樹	M2	内科学	コロンビア	コロンビアリューマチ学会	1983.12.1～12.9(9)		東京女子医大リュウマチセンター副所長
234	丸山雅一	M2	内視鏡学	グァテマラ	汎米消化器病学会	1983.11.12～11.20(9)		癌研究会付属病院内科医長
235	長廻紘	M2	〃	〃	内視鏡学会	1983.11.13～11.20(8)		東京女子医科大学消化器病センター講師
236	萩原弥四郎	M0	神経薬理学	ペルー	E. L. マルティネス社会保障病院	1983.10.31～11.6(7)		千葉大学医学部長
237	村松稔	M0	人口家族計画	トルコ	人口家族計画セミナー	1983.9.10～9.19(10)		国立公衆衛生院衛生人口学部長
238	笹野暉樹	1	〃	〃	〃	1983.9.10～9.18(9)		JICA医療協力特別業務室長

番	氏名	格付	指導科目	派遣国	派遣機関	派遣期間（日）	区分	赴任時現職
239	高橋理明	M0	稀釈生ワクチン	タイ	ウイルス研究所	1983.9.1～9.14(15)		大阪大学微生物研究所
240	小川秀興	M2	皮膚学	〃	国際皮膚科学研修コース	1983.8.1～8.12(13)		順天堂大学皮膚科学教授
241	広田映五	M1	病理学	コロンビア	サンホセ病院	1983.7.11～7.18(8)		国立ガンセンター研究所病理部（室長）
242	奥田邦雄	M0	内科学	ペルー	ラ米肝臓学会	1983.11.5～11.13(9)		千葉大学医学部長
243	伊勢秦	M1	小児科学	コロンビア	国立がん研究所	1983.8.1～8.21(21)		国立がんセンター病院小児科医長
244	関場香	M0	産婦人科学	スーダン	ハルトウーム大学医学部	1983.11.3～11.17(15)		岡山大学医学部教授
245	太田尊介	M0	内科学	〃	〃	〃		〃
246	田中昇	M0	病理学	ボリヴィア	ボリヴィア癌学会	1983.11.19～12.1(13)		千葉県ガンセンター研究所研究局長
247	寡納勇	M1	病理学	〃	〃 病理学会	1983.11.11.～11.22(12)		浜松医科大学病理学第一教室教授
248	杉浦光雄	M0	外科学	メキシコ	国際肝臓外科学会	1983.11.16～11.23(8)		順天堂大学医学部教授
249	小山靖夫	M0	消化器病学	〃	メキシコ消化器病学会	1983.12.3～12.13(11)		国立ガンセンター病院病棟部長
250	細井重三	M2	〃	ボリヴィア	ボリヴィア癌学会	1983.11.19～12.1(13)		東京都ガン検診センター消化器科医長
251	大磯敏雄	M0	栄養学	タイ	第4回アジア栄養学会	1983.10.30～11.6(8)		（財）日本国際医療団常務理事
252	志方俊夫	M0	病理学	ペルー	ラ米肝臓学会	1983.11.3～11.14(12)		国立予防衛生研究所病理部長
253	大井淑雄	M1	リハビリテーション	フィリピン	国家身体障害者委員会	1984.1.25～1.27(3)		自治医科大学整形外科教授
254	渋谷光柱	M2	〃	〃	〃	1984.1.18～1.27(10)		〃 中央手術部助教授
255	関場香	M0	産婦人科学	シンガポール	カンダン・クルバウ病院	1984.2.25～3.12(17)		岡山大学医学部産婦人科学教授
256	糸井繁一	M0	眼科学	スリランカ	眼科病院	1984.3.22～3.31(10)		京都府立医科大学教授
257	小玉裕司	M5	〃	〃	〃	〃		〃 助手
258	津田良成	1	医療情報	タイ	SEAMIC XI	1984.2.4～2.11(8)		慶応義塾大学文学部教授
259	植松稔	M2	〃	〃	〃	〃		相模女子大学学芸部教授

59年度大学教授等講演等専門家派遣実績表

No.	国名	派遣要請機関名	指導科目	専門家氏名	区分*	派遣期間	専門家所属先
	<アジア地域>						
1	タイ	国立皮膚病研究所	皮膚科学	小川 秀興	M	59. 3.25～ 4. 7.(9日)	順天堂大学医学部皮膚科学教室教授
2	〃	〃	〃	鈴木 啓之	〃	59. 6.11～ 6.23.(13日)	日本大学医学部皮膚科学助教授
3	〃	〃	〃	田上 八朗	〃	59. 7.22～ 8. 6.(16日)	東北大学医学部皮膚科学教授
4	〃	〃	〃	今村 貞夫	〃	59. 8. 5～ 8.20.(16日)	京都大学医学部皮膚科学教授
5	〃	〃	〃	西岡 清	〃	59. 8.18～ 8.31.(14日)	大阪大学医学部皮膚科学講師
6	〃	〃	〃	市橋 正光	〃	59. 9. 2～ 9.15.(14日)	神戸大学医学部皮膚科学助教授
7	〃	〃	〃	神崎 保	〃	59.12. 8～12.22.(11日)	北里大学医学部皮膚科助教授
8	〃	〃	〃	宗像 醇	〃	59. 1. 9～ 1.20.(12日)	日本医科大学皮膚科教授
9	〃	チュラロンコン大学薬学部	薬用植物調査	樋口 義洋	〃	59. 8. 1～ 8.31.(31日)	千葉大学薬学部生薬学講師
10	〃	〃	〃	河野 俊彦	—	59. 8. 1～ 8.10.(10日)	千葉大学医学部肺癌研究施設助手
11	〃	〃	〃	戸部 博	—	59. 8. 1～ 8.16.(16日)	千葉大学理学部生物学科助手
12	〃	SEAMICマラリア対策ワークショップ	マラリア対策	高田 季久	M	59. 8.19～ 8.25.(7日)	大阪市立大学医学部動物学教授
13	〃	〃	〃	和田 義人	—	59. 8.19～ 8.25.(7日)	国立予防衛生研究所衛生昆虫部部長
14	〃	チュラロンコン大学医学部	寄生虫学	佐々 学	M	59. 8.19～ 8.30.(12日)	富山医科薬科大学学長
15	〃	〃	脳神経外科学	高久 晃	〃	59. 8.26～ 9. 2.(8日)	〃 脳神経外科学教授
16	〃	〃	歯科口腔外科学	古田 勲	〃	59. 8.26～ 9. 2.(8日)	〃 歯科口腔外科学教授
17	〃	〃	技術協力	後藤 俊男	—	59. 8.26～ 9. 2.(8日)	国際協力事業団医療協力部職員
18	スリランカ	保健省／WHOマラリア対策ワークショップ	マラリア対策	栗原 毅	M	59. 6. 9～ 7. 2.(24日)	帝京大学医学部寄生虫学教授
19	インドネシア		放射線科学	市川平三郎	M	59. 9. 1～ 9.10.(10日)	国立がんセンター病院院長
20	〃	〃	病理学	広田 映五	〃	59. 9. 1～ 9. 7.(7日)	国立がんセンター研究所第一組織病理研究室長
21	韓国	幹林大学臨床栄養研究所	栄養学	山口 迪夫	—	59.10. 5～10.20.(16日)	国立栄養研究所食品科学部長
22	〃	〃	臨床栄養学	松枝 啓	M	59.10.13～10.18.(6日)	国立病院医療センター消化器内科医師
23	ビルマ	保健省／WHOマラリア対策評価ワークショップ	マラリア対策	田中 寛	〃	60. 2.16～ 3. 1.(14日)	東京大学医科学研究所寄生虫学教授

＊注） 区分の記号は，M：医療専門家，—：一般専門家で，すべて短期専門家。

No.	国名	派遣要請機関名	指導科目	専門家氏名	区分*	派遣期間	専門家所属先
	<アジア地域>						
24	中国	黒竜江省科学技術委員会	がん対策	安達　勇	M	60. 3.20～ 3.27.(8日)	国立がんセンター病院内科医長
25	〃	〃	〃	柄川　順	〃	60. 3.20～ 3.27.(8日)	国立がんセンター病院放射線治療部部長
26	ネパール	保健省、マタニティ・ホスピタル	産婦人科学	相馬　広明	〃	60. 2.24～ 3. 9.(14日)	東京医科大学産婦人科学教授
	<中南米地域>						
1	ボリヴィア	第三回消化器内視鏡・第五回消化器内科学学会	消化器内科学	廣倉　均	M	59. 4.20～ 5. 3.(14日)	慶応大学医学部内科学講師
2	〃	〃	放射線診断学	松江　寛人	〃	59. 4.20～ 5. 3.(14日)	国立がんセンター付属病院放射線診断部
3	ドミニカ	胃腸内科学学会	血液学	清水　盈行	〃	59. 4. 9～ 4.19.(11日)	世田谷保健センター所長
4	〃	〃	消化器内科学	藤田　力也	〃	59. 4. 9～ 4.19.(11日)	昭和大学内科学教授／藤が丘病院内科
5	ブラジル	リオ・グランデ・ド・スール・カソリック大学成人病研究所	高脂質症	中村　治雄	〃	59. 7.16～ 7.23.(8日)	防衛医大第一内科教授
6	〃	〃	老人内分泌学	折茂　肇	〃	59. 7.17～ 7.27.(11日)	東京大学医学部老年病学助教授
7	ペルー	内務省警察衛生局	循環器病学	井上　清	〃	59. 6.20～ 6.29.(10日)	東京警察病院循環器センター所長
8	〃	国立衛生研究所	微生物病理	竹田　美文	〃	60. 1. 4～ 1.21.(18日)	東京大学医科学研究所教授
9	〃	〃	〃	石橋　正愿		60. 1. 4～ 1.21.(18日)	大阪府立公衆衛生研究所研究員
10	コロンビア	サンホセ病院	血液学	下山　正徳	M	59. 7.23～ 8. 1.(10日)	国立がんセンター臨床検査部室長
11	メキシコ	メキシコ小児外科全国大会	小児外科学	木村　健	〃	59. 9. 7～ 9.20.(14日)	兵庫県立こども病院外科医長
12	コスタリカ	コスタリカ大学電子顕微鏡センター	ウイルス学	深井孝之助	〃	59.11. 3～11.12.(10日)	阪大微生物病研究会
13	ウルグアイ	教育文化省生物学研究所	糖尿病神経症	竹中　敏文	〃	60. 2.16～ 4. 7.(51日)	横浜市立大学医学部生理学教授
14	〃	〃	〃	千原　悦夫	〃	60. 2.16～ 4.21.(65日)	京都大学医学部眼科助手
	<中近東・アフリカ地域>						
1	ザイール／スイス	保健福祉省／WHO本部	ウイルス学	北村　敬	M	60. 3. 5～ 3.17.(13日)	国立予防衛生研究所外来性ウイルス室長
2	〃	〃	病理学	倉田　毅	〃	60. 3. 5～ 3.17.(13日)	東京大学医科学研究所病理学研究部助教授
3	〃	〃	医動物学	杉山　和良		60. 3. 5～ 3.17.(13日)	国立予防衛生研究所外来性ウイルス室研究官
4	〃	〃	協力計画	成瀬　章		60. 3. 5～ 3.17.(13日)	国際協力事業団医療協力部特別嘱託
5	〃	〃	技術協力	中野　直継		60. 3. 8～ 3.17.(10日)	外務省経済協力局技術協力課事務官

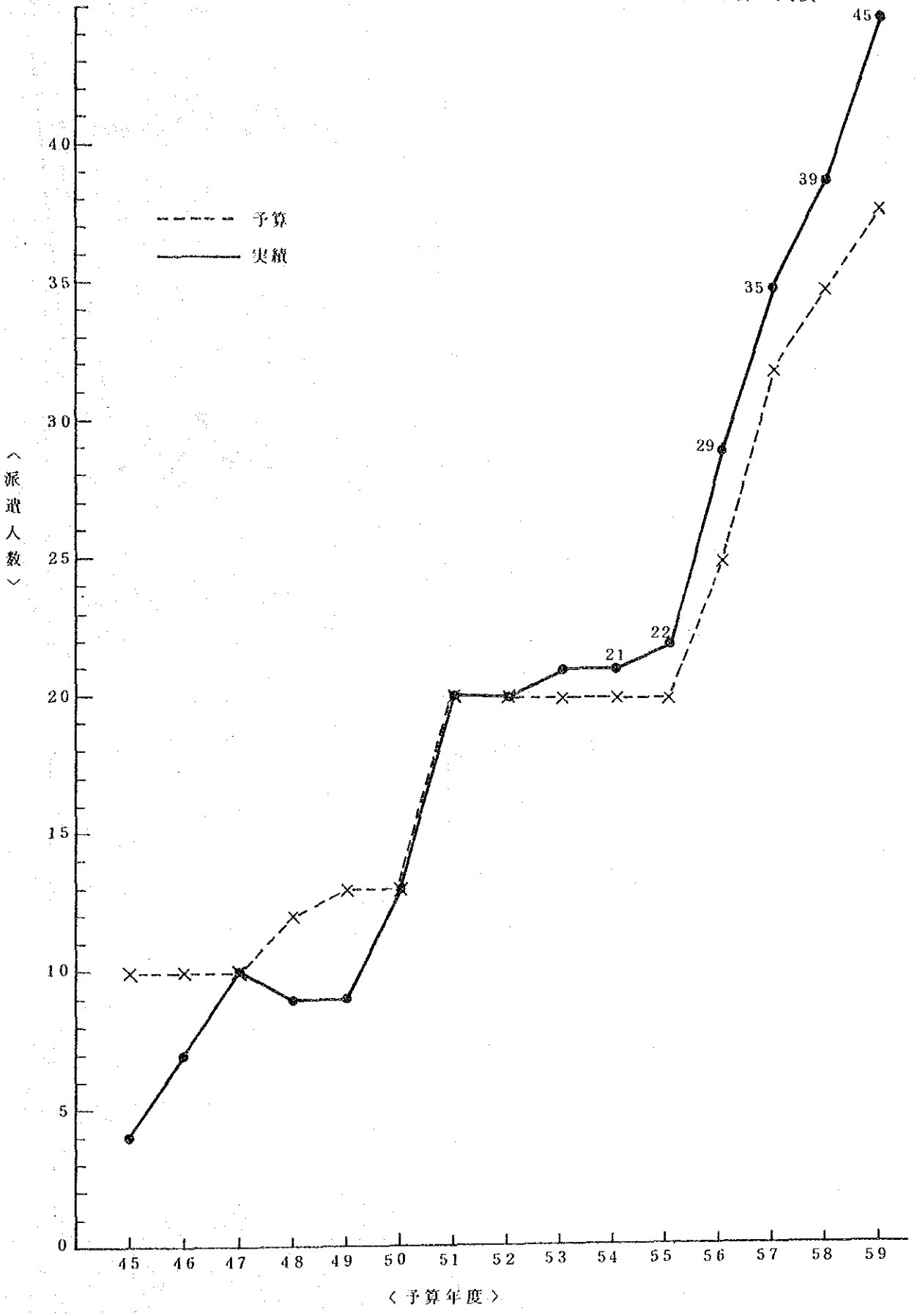
＊注）　区分の記号は，M：医療専門家，－：一般専門家で，すべて短期専門家。

59年度単発派遣医療専門家派遣実績表

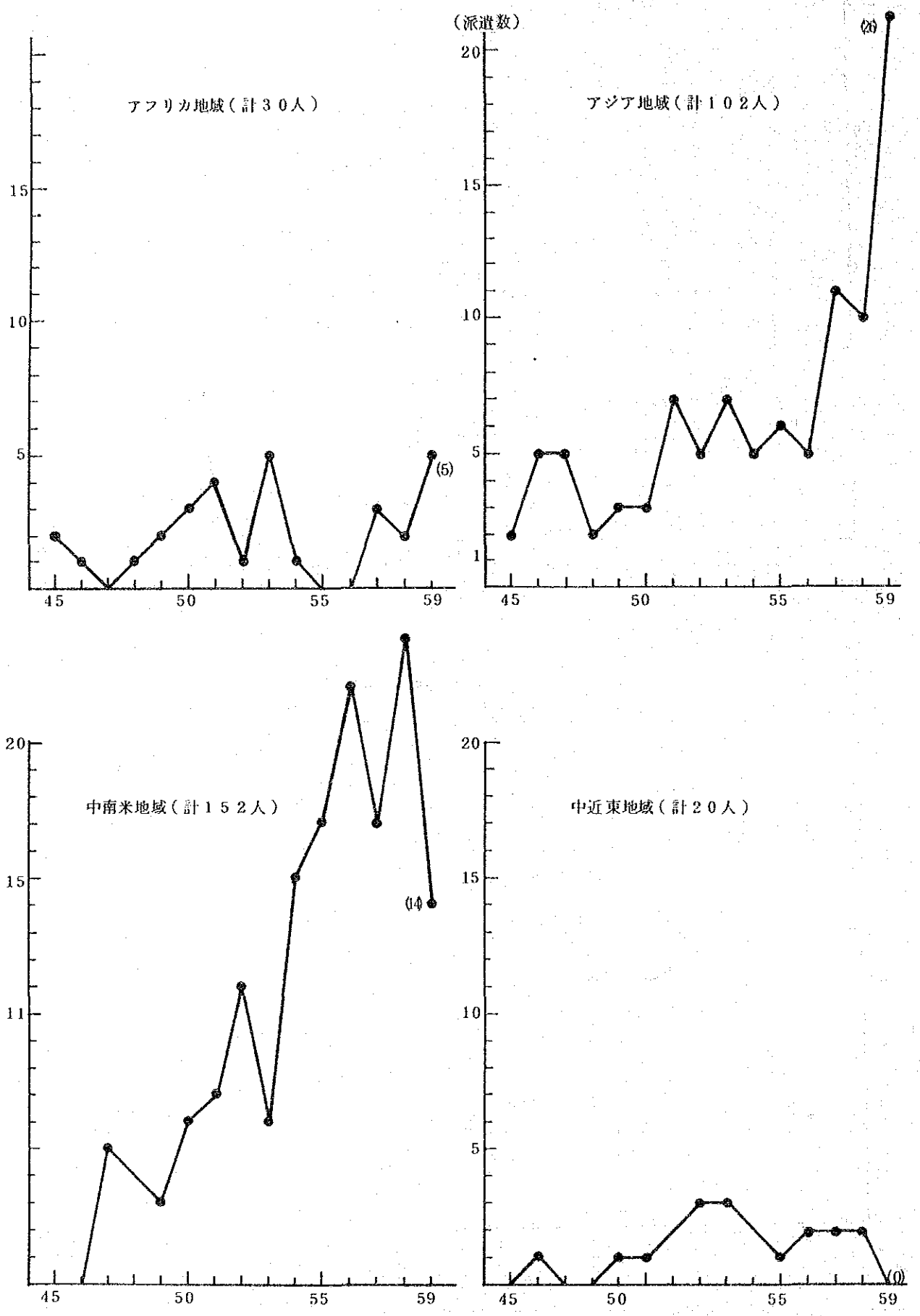
No.	国名	派遣要請機関名	指導科目	専門家氏名	区分*	派遣期間	専門家所属先
	<アジア地域>						
1	インド	JALMA／中央らい研究所	ハンセン氏病学	西占　貢	M長	58.12. 9～60. 1.17.	無職（京都大学名誉教授）
2	〃	〃	〃	福西　征子	〃短	59.12.20～12.30.(11日)	国立療養所大島青松園内科医長
3	フィリピン	保健省	食品薬品品質管理	桑崎　俊昭	一〃	59. 8.27～ 9. 8.(13日)	厚生省生活衛生局食品保健課主査
4	〃	〃	〃	岩原　繁雄	一〃	59. 8.27～ 9. 8.(13日)	(財)食品薬品安全センター食品環境部長
5	〃	〃	〃	内山　允	一〃	59. 8.27～ 9. 8.(13日)	国立衛生試験所薬品部長
6	パキスタン	〃	看護教育	志摩チヨ江	一〃	59. 8. 2～ 8.17.(16日)	(財)国際看護交流協会理事
7	バングラデシュ	保健・人口抑制省	眼科機械据付	山崎　一哉	一〃	59.10.27～11. 3.(8日)	(株)ニデック第二製造部技師
8	スリランカ他	一	技術協力巡回指導	中平　立	一〃	60. 1.14～ 1.28.(15日)	国際協力事業団理事
9	〃	一	〃	岡部　薫	一〃	59.12. 8～12.22.(11日)	国際協力事業団医療協力部管理課長
	<中南米地域>						
1	グアテマラ	公衆衛生・社会福祉省	昆虫学	山形　洋一	一長	58.10. 1～59. 9. 30.	無　職
2	〃	〃	寄生虫学	伊藤　守	一短	59. 5.26～ 8.25.(3月)	無　職
3	〃	〃	昆虫学	伊藤寿美代	一短	59. 5.26～ 8.25.(3月)	無　職
4	〃	〃	スーパーバイザー	鈴木　猛	M短	59. 5.26～ 8.25.(3月)	無　職
5	パラグアイ	アスンシオン国立大学医科学研究所	電子顕微鏡据付	伊藤　鉄幸	一〃	59. 8.20～ 9. 1.(13日)	日本電子(株)海外本部サンパウロ駐在員
6	〃	〃	電子顕微鏡学	瀬口　春道	M〃	60. 1.11～ 2.10.(1月)	高知医科大学医学部解剖学教授
	<中近東・アフリカ地域>						
1	ニジェール	保健省	外科学	谷垣　雄三	M長	57. 1. 9～61. 1. 8.	厚生会小岩病院副院長
2	チュニジア	国立栄養研究所	微生物学	松井　道子	一短	59. 4. 8～ 8.18.(4.5月)	国立衛生試験所衛生微生物部主任研究官
3	ザイール	保健省	ウイルス学	北村　敬	M短	59. 4.10～ 4.30.(21日)	国立予防衛生研究所外来性ウイルス室長
4	〃	〃	公衆衛生学	橋本　信夫	一短	59. 4.10～ 4.30.(21日)	北海道大学獣医学部獣医公衆衛生学教授
5	〃	〃	病理学	倉田　毅	M短	59. 4.10～ 4.30.(21日)	東京大学医科学研究所病理学研究部助教授
6	〃	〃	業務調整	成瀬　章	一短	59. 4.10～ 4.30.(21日)	国際協力事業団医療協力部特別嘱託
7	〃	〃	技術協力	井上　進	一短	59. 4.10～ 4.20.(11日)	外務省経済協力局技術協力課事務官
8	ケニア	ケニア医科学研究所	伝染病研究対策	佐藤　淳夫	M短	59. 6.26～ 9.12.(2.5月)	鹿児島大学医学部医動物学教授
9	〃	〃	〃	野田　伸一	一短	59. 6.26～10.11.(3.5月)	鹿児島大学医学部医動物学助手
10	〃	〃	〃	佐藤　克之	M短	59. 6.26～10.11.(3.5月)	長崎大学熱帯医学研究所助手
11	エジプト	保健省看護教育センター	視聴覚教材製作	牛山　雅英	一短	59. 3.13～ 5. 2.(1.5月)	(財)AVCC教材部主事

＊注）　区分欄の記号は，M：医療専門家，一：一般専門家，長：長期専門家，短：短期専門家。

資料２　大学教授等の保健医療講演等派遣事業の年度予算・実績

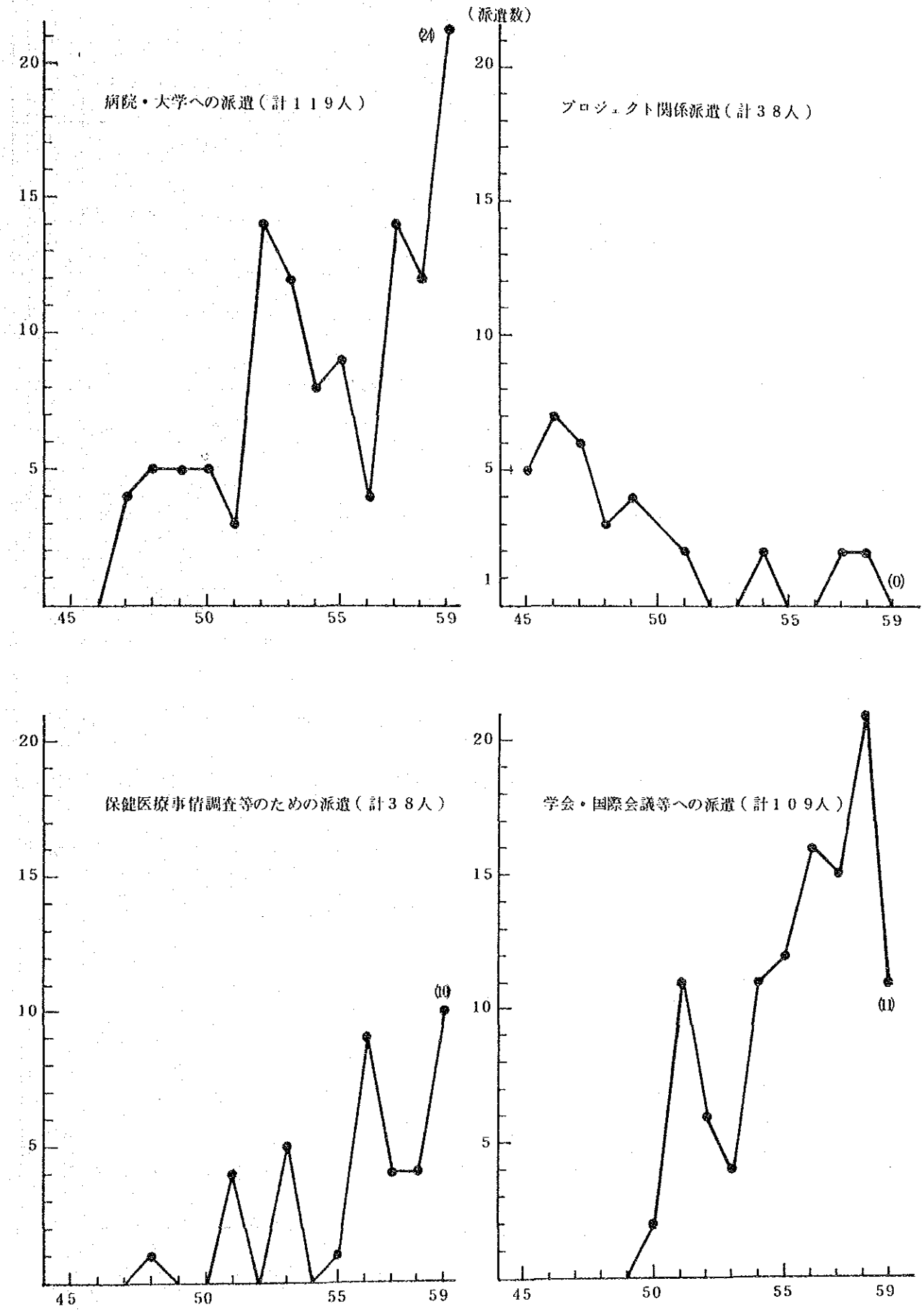


資料３　大学教授等の保健医療講演等派遣事業の年度別・地域別派遣実績（４５～５９年度）



※注１）ユーゴスラビア１人，２）イギリス１人を含む

資料４　大学教授の保健医療講演等派遣事業の年度・業務別派遣実績（４５～５９年度）



大学教授等派遣国別実績（昭和４５～５８年）

（ ）内継続派遣専門家数

国名＼年度	４５	４６	４７	４８	４９	５０	５１	５２	５３	５４	５５	５６	５７	５８	５９
バングラデシュ												1			
ビルマ					1	(1)		1	1						1
中国															2
インド								2	(2)						
インドネシア			2	1	1	3		1	1	2					2
大韓民国			3								2		7		2
ラオス				1											
マレイシア							3	(2)	2	1		2			
ネパール									2	(2)		1			1
パキスタン								1	(1)			1			
フィリピン					1	3							1	2	
シンガポール							2		1		2			1	
スリランカ		1												2	1
タイ	1			1	1					2	2		3	5	17
ヴィエトナム	1	3													
台湾		1													
アフガニスタン		1			1										
エジプト							1	2	1						
イラク									2						
クウェイト													1		
レバノン											1				
リビア				2											
スーダン												2	2	2	
テュニジア						1									
トルコ								1						2	
エティオピア	2														
ガーナ		1		1	2	(2)	2			1			2		
ケニア						1			1						

国名＼年度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
リベリア									1						
ナイジェリア						2									
タンザニア							1	1	2						
ブルキナファン							1								
ザンビア									1						
ザイール															5
アルゼンティン			4			1	2			2	2	4	1	3	
ボリヴィア										3		2	1	3	2
ブラジル			4		1	1			1	2	3	4	4	3	2
チリ			4					2		1	3	1	5		
コロンビア			4			2	2		2	3(2)		1	1	3	1
コスタ・リカ							2		2	2	2				1
ドミニカ（共）						2		2		2	1	1			
エクアドル							2					3			2
エル・サルヴァドル					1										
グァテマラ				1										2	
ハイティ												1			
ホンデュラス							1	2				1	2		
ジャマイカ								1							
メキシコ				3				1				1	3	3	1
ニカラグァ								2				1			
パナマ						2				1					
パラグァイ				3	1						1		1		
ペルー			5					2	1	3	2	2	2	6	3
プエルトリコ								1							
ウルグァイ				3							2				2
ヴェネズエラ						2					1			1	
フィジー												1			
パプア・ニューギニア							2	(2)							
英国								1							
ユーゴスラヴィア							1								

大学教授等派遣国別氏名（昭和45～59年）

（）内継続派遣専門家数

国名＼年度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
バングラデシュ												三島　済一			
ビルマ					林　都志夫	(林　都志夫)		塩沢　正俊	春日井逢造						田中　寛
中国															柄川　順 安達　勇
インド								重松　峻夫 新　太喜治	(重松　峻夫) (新　太喜治)						
インドネシア			今野　草二 高梨　吉則	宮下　修	塩沢　正俊	今井　康晴 榊原　高之 北村　信夫		塩沢　正俊	竹内　正	若生　宏 中瀬　安清			曲直部寿夫 藤田　毅		市川平三郎 広田　映五
大韓民国			福島　英雄 福見　秀雄 浅野　一雄								涌沢　玲児 新津　勝弘		小泉　明 竹尾　和典 藤本　正憲		山口　迪夫 松枝　啓
ラオス				加納　保之									三輪谷俊夫 田中　平三		
マレイシア							林　薫 菅山　友三 村松　稔	(林　薫) (菅山　友三)	植松　稔 開原　成充	大森喜太郎		大磯　敏雄 山口　賢治			
ネパール									小石　秀夫 大磯　敏雄	(小石　秀夫) (大磯　敏雄)		大磯　敏雄			相馬　広明
パキスタン								川崎　富作	(川崎　富作)			川崎　富作			
フィリピン					黒岩義五郎	今井　康晴 榊原　高之 北村　信夫							大橋　誠	大井　淑雄 渋谷　光柱	
シンガポール							戸沢　真六 酒井　義治		藤田　力也		斉藤　誠 中村　明子			関場　香	
スリランカ		白羽 弥右衛門												糸井　素一 小玉　裕司	栗原　毅
タイ	石川　七郎			加納　保之	黒岩義五郎					津田　良成 大橋　誠	村松　稔 小川　秀興		田中　恒男 深井孝之助 小川　秀興	高橋　理明 小川　秀興 大磯　敏雄	樋口　義洋 戸部　博
ヴィエトナム	馬島　秀磨	金井　清次 藤井　貞夫 森安　啓雄												津田　良成 植松　稔	河野　俊彦 小川　秀興 鈴木　啓之

年度 / 国名	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
台湾		竹内　正													田上　八朗 今村　貞夫
アフガニスタン		水野祥太郎			水野祥太郎										西岡　清 市橋　正光
エジプト							大井　至	川喜田愛郎 (大井　至)	田中　勝						神崎　保 宗像　薛
イラク									内藤　正明 橋本　道男						佐々　学 高久　晃
クウェイト													島尾　忠男		古田　徹 高田　季久
レバノン											田中　隆一				和田　義人 後藤　俊男
リビア				中島　章 大園　真彦											
スーダン												稲臣　成一 金政　泰弘	鈴木　守 五十嵐郁男	関場　香 太田　淳介	
チュニジア						鈴木　淳									
トルコ								高久　史麿						村松　稔 笹野　輝樹	
エティオピア	朝比奈正二郎 石崎　迷														
ガーナ		辻　義人		南　一守	藤原　留造 大原　徳明	(藤原　留造) (大原　徳明)	本多　憲児 藤原　留造			大原　徳明			川村　光毅 板倉　英世		
ケニア						林　潤			小林　登						
リベリア									高木　駕						
ナイジェリア						勝木　保次 佐藤　吾一									
タンザニア							島尾　忠男	山元　貞男	関場　香 太田　淳介						

国名＼年度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
ブルキナファソ							大瀬　貫光								
ザンビア									駿河敬次郎						北村　敬 倉田　毅
ザイール															杉山　和良 中野　直樹 成瀬　章
アルゼンティン			村上　忠重 熊倉　賢二 岡部　治弥 鈴木　晃			堀江　皇平	相馬　智 丸山　雅一			斉藤　洋一 有山　襄	武藤徹一郎 堺　隆弘	藤田　力也 西沢　護 岡田　利邦 丸山　俊秀	武藤徹一郎	朝倉　均 渡辺　英伸 保母須弥也	
ボリヴィア										栗原　稔 西沢　護 栗原　稔		竹内　正 田中　昇	中村　恭一	田中　昇 喜納　勇 細井　薫三	松江　寛人 朝倉　均
ブラジル			村上　忠重 他3		中村　恭一	原　義雄			鈴木　和男	坂部　孝 諸橋　侃	中村　治雄 原科　孝雄 遠藤　光夫 藤野　豊美	本多　徳児 和田　寿郎 佐藤　貞勝 東海林秀郎	折茂　肇 中村　治雄 島田　彰夫	五島雄一郎 兼本　成冠 保母須也弥	中村　治雄 折茂　肇
チリ			〃					村上　忠重 小黒八七郎		岡本　英三	曽我　淳 石川　逢世 大森　清弘	長谷川　博	中村恭一(2) 丸山　雅一 渡辺　英伸 清成　秀康		
コロンビア			〃			西　満正 栗原　稔	岡部　治弥 田島　強		比企　能樹 西元寺克礼	(比企　能樹) (西元寺克礼) 松本　慶蔵		西　満正	上原　康生	広田　映五 西岡久寿樹 伊勢　泰	下山　正憲
コスタ・リカ							岡島　邦雄 小林　登		藤岡　晟宏 川崎　富作	栗原　稔 久道　茂	宮原　正 高倉　敏				深井孝之助
ドミニカ(共)						西　満正 栗原　稔		中山　恒明 木下　祐宏		本多　徳児 千葉　淳	藤田　力也	藤田　力也			清水　盈行 藤田　力也
エクアドル							岡部　治弥 田島　強					服部　淳 五味　昭彦 東島　功		山田　逢哉 吉森　正喜	
エル・サルヴァドル					中山　恒明										
グァテマラ				多田　功										丸山　雅一 長廻　弘	
ハイティ												鈴木　守			

年度 国名	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
ホンデュラス							林　貫雄	渡辺　富雄 栗原　徹郎				稲葉　善雄	田中　寛 安野　正之		
ジャマイカ								鴻上　隆男							
メキシコ				城所　仂 信田　重光 土井　保誉				春日井逸造				丸山　雅一	藤田　力也 羽生富士夫 遠藤　光夫	大沢　仁 杉浦　光雄 小山　靖夫	木村　露
ニカラグァ								外山　敬夫 鳥飼　勝隆				林　貫雄			
パナマ						林　貫雄 桜井　勇				栗原　稔					
パラグァイ				城所　仂 他2	難波　敬士						川井　啓市		駿河敬次郎	小黒八七郎	
ペルー			宮崎　一郎 村上　忠重 他3					村上　忠重 小黒八七郎	加藤　正明	郡納　勇 朝倉　均 大橋　計彦	松江　寛人 梅田　典嗣	長谷川　博 保母須弥也	山田　逢哉 小林　茂雄	浦井　昭 中村　恭一 萩原弥四郎	井上　清 竹田　美文 石橋　正雄
プエルトリコ								堀田　進						奥田　邦雄 志方　俊夫	
ウルグァイ				城所　仂 他2							原科　孝雄 藤野　盛美				千原　悦夫 竹中　敬文
ヴェネズエラ						林　貫雄 桜井　勇					丸山　雅一			網野　信行	
フィジー												三木　誠			
パプア・ニューギニア							村尾　誠 重松　逸造	〈村尾　誠〉 〈重松　逸造〉							
英國								村松　稔							
ユーゴスラヴィア							小林　利次								

JICA